やさしく　かしこく　たくましく

# 山本小学校だより

令和５年１２月１日
Ｎｏ．１４
文責　宮村　まり

１０月１１月は、それぞれの学年で、集団宿泊教室、見学旅行、修学旅行などの行事を通して、様々な経験をして、多くを学んだ山本っ子たちです。それぞれの活動の様子はHP「山本っ子ニュース」に掲載しています。

保護者の皆様には、たくさんのご支援をいただき感謝申し上げます。

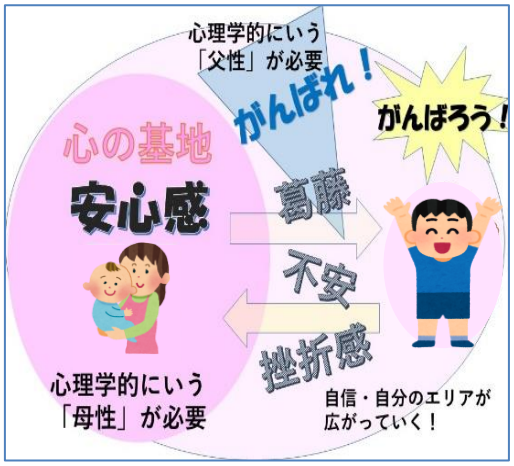
植木地区音楽・学習交流会で見事な演奏を披露した５・６年生

## 【やさしくたくましく育て山本っ子！②】頑張ろうと思う心

前号からずいぶん間があいてしまい申し訳ありません。前号では「苦い経験も成長のチャンス！」というサブテーマで、お子さんにとって苦い経験を事前に取り除いてしまうのではなく、お子さんの様子や状況をよく見て、どのような関わりをすると成長に結びつくのか、周りの大人が冷静に判断しましょうとお伝えしました。

さて、子どもたちが、成長する過程で、「自分で考えよう。」「自分でやってみよう」「次は頑張ろう！」と自立して、葛藤を乗り越える気持ちを持つためには、「安心感」や「安定感」が基盤にあり、そこに「頑張れ！」という後押しがあるかが大きいそうです。

その成長の過程は、お子さんたちがまだ、赤ちゃんだったころ、ご家族から少し離れては振り返って戻りながら、その距離を少しずつ伸ばしていく姿に似ています。




心理学的には「母性」（無条件に自分の存在を認めてもらう安心感）と「父性」（自立を促し「がんばれ！」とドンと背中を押す厳しさ）と呼び、そして、この父性と母性のバランスがとても大切だと言われています。言葉では「母性」「父性」ですが、それを担う人の性別は関係ないそうです。大きくなるにつれて、その役割を果たす人の中に、学校の先生や友達・先輩などが入ってきますが、基本はずっと継続して関わる大人、つまり家族が大きな割合をしめることが多いようです。ただ、「無条件に存在を認める」とは「何をしても叱らない」ことではなく、具体的にどのような関わりかというのは難しいのですが、私は「『あなたは、ここにいていいんだよ』と伝えること」、「あきらめずに成長を信じること」だと解釈しています。

山本小の子どもたちの、明るくいろいろなことにチャレンジしたり、自分の力で頑張ろうとしたりする「たくましい」姿に触れるたびに、きっとご家族のこのような関わりをしてくださっているからだろうなと思っています。（次号「③自分の生き方を決める力」）